



どんぐり幼稚園運動会

# みんなの 町議会

第8号  
2006年10月

 神石高原町

主な内容

平成18年度補正予算 .....	2
こんなことが決まりました .....	3
審議中 こんな質疑がありました .....	4
一般質問 .....	6
元気なグループ紹介 .....	14



# 2億6,626万円(一般会計)の 補正予算を可決

## 九月定例会

九月定例会は、九月十九日に招集され、十二日までの会期で開かれました。

今回の定例会(第六回)では、平成十八年度九月一般会計・各特別会計補正予算、神石高原町乳幼児医療費支給条例の一部を改正する条例について等、二十五議案が提案され、すべて原案どおり可決しました。

一般質問では、十名の議員が当面する行政課題を質しました。

## 多くは災害復旧費

平成十八年度九月補正予算は、一般会計で二億六千六百二十六万円、特別会計で五千六百六十五万円増額され、それぞれ百六億四千三百二十九万円、六十四億三千三百七十七万円となりました。

主なものは、一般会計では、歳入で新たな普通交付税確定分として、一億三千六百九十五万円、油木商業集積地売

却収入として三千万円等が計上され、歳出面では本年七月一〜二日、十八〜十九日の梅雨集中豪雨による災害復旧費の三億七百九十一万円が計上されました。

特別会計では、国民健康保険特別会計で、保険財政共同安定化事業の拠出金としての四千五百万円の計上が主なものです。

平成 18 年度補正予算明細表

単位：千円

会計名称	当初予算額	補正予算額(歳入歳出同額)		補正後予算額
		7~8月	9月	
一般会計	10,349,991	27,036	266,265	10,643,292
特別会計	6,376,519	0	56,653	6,433,172
国民健康保険特別会計(事業勘定)	1,271,231	0	53,655	1,324,886
“(診療施設勘定)	6,000	0	0	6,000
老人保健特別会計	2,532,839	0	0	2,352,839
介護保険特別会計(事業勘定)	1,704,311	0	270	1,704,581
“(介護サービス)	48,063	0	0	48,063
簡易水道事業特別会計	497,193	0	728	497,921
飲料水供給施設事業特別会計	35,028	0	0	35,028
農業集落排水事業特別会計	250,943	0	2,000	252,943
観光施設事業特別会計	30,811	0	0	30,811
分収育林事業特別会計	100	0	0	100
合 計	16,726,510	27,036	322,918	17,076,464





# こんなことが 決まりました



平成 18 年度 9 月 補正予算明細表 (主なもの)

(単位：千円)

款	科 目	金額	説 明
総 務 費	行政財産管理費	2,741	測量設計委託料
民 生 費	社会福祉総務費	▲ 1,468	福祉タクシー精算分
衛 生 費	塵芥処理費	1,500	グリーンセンター油屋集会施設トイレ
	簡易水道費	▲ 16,000	繰出金
農 林 水 産 業 費	農村総合整備事業費	31,520	県営中山間整備 (農道 2、防火水槽等)
	造林整備費	15,990	林業再構築プロジェクト (城山、父木野)
商 工 費	公 園 費	1,934	スコラ、星居山、紙ヒコーキタワー
土 木 費	道路新設改良費	26,564	県道整備 (13 路線)、単県町道整備等
消 防 費	消 防 施 設 費	▲ 9,700	中山間県営事業消防施設負担金
教 育 費	学 校 管 理 費	1,000	豊松中学校トイレ、油木中学校雨漏り
災 害 復 旧 費	農地・施設復旧費	232,438	施設 51、農地 34
	林道復旧費	21,032	4 カ所
	土木施設復旧費	54,440	7 カ所

## そのほか、審議され議決された主なもの

- ◎人権擁護委員候補者の推薦について意見が求められ同意しました。  
候補者は、神石高原町小野「前原 弘臣」さんと、階見の「佐伯 知省」さんです。
- ◎国民健康保険法等の一部を改正する法律が施行されたので助成額が改正されました。  
1) 乳幼児医療 2) ひとり親家庭等 3) 老人 4) 重度心身障害者  
また、出産一時金支給額が改正され、30 万円から 35 万円となりました。
- ◎障害者自立支援法の制定により、障害者相談支援事業を実施することになりました。  
本町は、福山市に事務委託しました。



# 審議中

## こんな質疑がありました

### 問 補助金申請の簡素化を

瀬尾征爾議員

**Q** 申請の添付書類で一例をあげると、猪電柵では「設置前写真」「所有者同意書」、水田明渠排水事業では「公図」

「事業計画」「収支予算書」など合理性がなく不要なものが多すぎる。

点検し、即見直すべきと思うが。

**A** 町長 事務の簡素化は絶えず研究、検討しなければならぬ。点検・見直しを徹底したい。

**Q** 出産育児一時金が十月より三十万円から三十五万円に増額となったが支払い

は、出産後、申請

手続きをするので

遅くなる。出産予

定日一カ月前から

申請し、保険者

(町)から医療機

関(産婦人科医院)

に直接支払い、窓

口負担は差額分の

み支払う受領委任

払い制度に早急に

改めるべきでは。

**A** 福祉課長

ただちに実施

とはいかないが、

その方向で進んで

いる。

### 問 出産育児一時金の受領委任払いを

寄定秀幸議員



美野江地区災害



神石地区老人福祉大会





油木商業集積地

## 問 商業集積地の売却は

松本彰夫議員

**Q** 商業集積地をJAに三千万円で売却する補正予算が計上されている。

本来の目的と違うが、商工会との協議は、

また、JAの油木支店を新築する予定だが、具体的な計画や着工予定は、

**A** 町長

合併前に商工会は出店を断念しており、異論はない。

油木支店のグリーンセンターが出店するので、商業の活性化も期待できる。具体的な計画はまだ聞いていない。

**Q** 県立神石三和病院は、町が受け取る

方向で、「県立神石三和病院対策協議会」の設置が予算化されている。町が受け取るのを前提でなく、まずどんな病院が必要かを議論すべきではないか。

**A** 町長  
県立としての病院の存続は断念せざるを得ない。いつまでも町民に期待感を与えるべきでない。

方法については対策協議会に委ねる。

**Q** 本年度から、猪の捕獲奨励金などに充てられていた、県費補助金の報奨金百四十万円が、全額減額された。今後の対策は。

**A** 産業課長  
県費補助の報奨金は全廃されたが、町費で、上限を百万円として対応する。来年度以降についても、県の補助は期待できず、単町費で考えざるを得ない。

## 問 障害者相談支援事業は

久保田龍泉議員

**Q** 障害者相談支援事業については、福山市へ委託される事になったが、障害者が相談する場合、本人が福山まで出向くのか。

**A** 福祉課長  
申請があれば、福山市から本町に訪問して相談を受ける。



いづみ保育所運動会



# あなたの声を町政に

十人が一般質問（質問順）

一般質問では、十人の議員が登壇し、公民館活動、おでかけタクシーなどについて質問しました。

今回も、一時間以内での一問一答方式で行いました。

**問**

「親学」<sup>おやがく</sup>研修会を強力に推進せよ

**答** 本町でも推進している



片山元八郎議員

三和地区親子平和学習



**Q** 明星大学の高橋教授は『親学』の基本例で「しっかりと抱き、下に降ろし、歩かせろ。」具体例「授乳時に携帯電話などもってのほか。」子どもは大人に甘え、依存し、自立への発達段階に応じた係わり方が重要と説く。

また、新聞によれば、PTAの会合で、女性校長曰く「雑巾くらいスー

パーで買わず、自分で縫って渡して」母親反論「そんなものにこだわるのは親の見栄」会合参加の母親全員この反論に賛成の拍手。本町でも記事のような実態があるのか。

**A** 教育長  
「親学」は推進している。最近では、神奈川

県から講師を招き、子育て支援講演会を開催。本

来の対象者である保護者の参加が少ないのが課題。十一月にも神石中で、家庭教育力の向上を目指す講演会がある。手づくり雑巾だが、町内のある学校の調査では、手縫い六割、百円ショップ等の購入四割。この善し悪しの判断はできない。

**Q** 新聞記事に「先生に無理難題、理不尽な親急増」とあり、親への対応に疲れ、精神性疾患の休職者激増とあるが、本町の実情はどうか。

**A** 教育長  
本町でも無理難題を言う保護者はいるが

少ない。休職教員は二名。保護者対応が原因ではない。





3世代交流ゲートボール（東油木）

## 問 油木高校生の思いへの支援は

### 答 自立可能な農林業で

**Q** 去る八月二十五日「油木高校を育てる会議」が開催され、その一部に産業ビジネス科女生徒による意見発表があった。

高い高齢化率・農業従事者の高齢化・耕作放棄地の激増等の実態を数値にあげ、それら厳しい地域農業の問題を自らの問題として取り組む姿勢が



小林 貢議員

示された。私は将来を担う若人が落胆して逃避するような神石高原町であってはならないと願う一人である。

発表をどう受け止め、若者定住・担い手育成のために、若者ニーズへの対応をどう考えるか。

**A** 町長 まさに本町の農業問題を真摯に捉え、地元

のまちをどう考えるか、素晴らしい発表であったし、産業ビジネス科の教育が正常で適切にできていると思った。

本町の現状は生産基盤・財政状況も極めて問題がある。実情把握をしなければ、是正には農林業で自立可能な形態が必要だ。農林業のモデル構想

を担当課で検討中である。

併せて、和牛改良センター跡地利用と連動する和牛の里再構築プロジェクトをつくって、新たな計画に油木高校生等若者に参入して頂きたいし、その指導もお願したい。

その事は、産業ビジネス科の定着、ひいては油木高校の存続を訴える最終的なものになるかと思う。

## 問 公民館長に正職員を

### 答 事務職員の配置の方向

**Q** 町長の行政課題の柱である「三つの過剰」のうち①過剰職員について。

合併前の町村では、職員削減策として「臨時化」「嘱託化」を進めてきたが、過剰職員の中では逆に臨時職、嘱託職を減ら

し正職員で対応し、経費削減に努めるべきだ。

公民館再編案が示されているが、公民館長に正職員を配置すると、公民館の立て直し、充実、経費削減となるが、人事権をもつ町長の考えは、



瀬尾 征爾議員

**A** 町長 館長より、事務職員配置の方向性で検討している。議会でもたまたま台として協議して頂きたい。

**Q** ②過剰債務（借金）について。

住民一人あたり百七十二万円は、県下一番であるが、町村の借金は社会基盤整備のために、国の赤字国債とは本質が異なる。

住民要望が山積し、その実現には財政運営上借金はやむを得ない。借りられるものは借り、町の活力源とすべきでは。

**A** 町長 借金ゼロにしたら建設計画の実現、住民要望に応えられない。ご指

摘の線していきたい。

**Q** ③過剰施設について。

水道施設管理が直営、地元と一貫せず平準化されていないが。

**A** 町長 合併時のバラツキをそのまま踏襲している。平準化しなければならず、早い時点で検討したい。



まちづくり大放談会



## 問 今後の財政について

### 答 見通しは厳しい

**Q** 交付税の見直しなどにより、人口減少率の高い自治体の、歳入の見通しは。

**A** 町長 歳入は、一段と厳しくなる。新型交付税の場合、県の試算によると五億から十億円の減額が予想される。歳入増のためには、依

存財源の交付税・補助金の減額をしないことを、国・県に強く要望し、自主財源である税と使用料の値

上げは、考えていない。

**Q** 老朽化する施設設備の維持、耐震調査による校舎の補強改築、また、高齢化・災害・交通・県立病院地元移管の問題で、歳出は増加すると予

想される。それらの対策は。

**A** 町長 歳出の増額は、免れないと思っている。

今後、必要な物、不必要な物については、処分も検討していく。県立病院は、私としては、厳しい財政であるが



丸山達夫議員

町が移管を受け、適当な医療機関に経営を委託する方向で協議する。

**Q** 今後の自治振興会への補助金は。

**A** 町長 自治振興会は、行政とのパイプ、窓口であるため、現状維持で、削減する気持ちはない。

## 問 おでかけタクシーの問題点は

### 答 改善に向け検討する

**Q** おでかけタクシーは利用者から不便だと聞く。予約時間の変動、目的地まで遠回りになる、急用の場合対応できない、隔日運行等の問題、制度の変更は考えているのか。

**A** 町長 運行協議会でも同じ

ような意見を聞いています。制度に賛否両論あり、試行段階なので改善の方法を検討する。業者側と利用者の意見を聞き、見直す。タクシー制度の変更は考えていない。

**Q** 十月よりバス永野循環線が廃止予定でしたが、保護者の要望が汲

み取られ一年延長になった。廃止説明が二週間前だったが遅いのではない

**A** 町長 中国バスとの協議が全く遅かった。今後はこういうことのないようにする。



久保田龍泉議員

**Q** 公務員の関係する飲酒運転が後を絶たない。職員の飲酒運転に対する処分基準は。

**A** 町長 国の基準に準じているが、今後は厳罰化の方向にする。飲酒運転しただけで、停職か免職にする。飲酒運転をさせないような啓発をする。

**Q** こばたけ保育所は施設が老朽化し、教室や廊下が雨漏りしている。県道バイパスの計画があり、グラウンドも買収される。この際、改築か、新築移転の考えは。

**A** 町長 遊戯室の雨漏りは修繕完了予定。他の雨漏り箇所は原因を調査し修繕したい。改築は考えていない。



牧地区民運動会



おでかけタクシー



## 問 広島牛改良センター跡地利用とアクセス道の改良を

### 答 神石高原和牛の里再構築を検討

**Q** 平成二十年四月、県より地元移管の広島牛改良センターの受け入れ態勢は。

**A** 町長  
また、アクセスの県道芳井油木線は、油木中学校もあり県へ改良を要請しては。

まだ詰めた協議はしていないが、土地・施設は本町に移管される。跡

地利用については、六月にプロジェクト推進本部を設立し、地元肉用牛改良組合と全農を入れて検討中で、十月末には方向性を出す。将来像としては、神石高原和牛の里再構築を図り繁殖牛を主体に基礎牛の安定供給の基地としたい。あわせて観光資源の開発も視野に入

れている。

**Q** 道路は移管のときの条件として出していきたい。

**A** 町長  
学校給食の副食食材も地元産でまかなえないか。また、町内商店で、地元農産物販売促進をすべきでは。

**Q** 町長  
学校給食は安定供給の面で困難性があるが、季節・時期を限定してで

も対応できるように努めたい。

**A** 教育長  
市販に頼っているが、自校調理場では地元産物使用校もあり、増やす方向で進める。食育の推進では来年度より栄養教諭による食に関する指導と給食管理に取り組む。



赤木健二議員



広島牛改良センター

## 問 公債費比率の改善は

### 答 将来的には一八%を目標に

**Q** 本町の実質公債費比率は一九・八%で、

借金しようと思えば、県との協議が必要となる。そして適性化計画を県に提出しなくてはならないが、その内容は。

また、現在の状況を利用するために、住民の理解が必要である。その

方法は、改善に向けての対策は。

**A** 町長  
新しい借金をしなくても、五年間は公債費比率は下がらない。長い期間をかけて改善する。将来的には、一八%を下回るよう考える。

町広報に、具体的な数字を示し、理解を求め、

新型交付税が導入されれば、更に十億円近い減額となるので、交付税の増額を強く求める。

**Q** お出かけタクシードライバーの見直しにあたっては、事業者、利用者、役場のそれぞれの立場にたって見直すべきだ。



松本彰夫議員

**A** 企画課長  
利用者の立場では、住民自らにも、共助・自助の精神を持ってもらい、受付時間の延長など利便性を高める。

事業者の立場では、利用実態に即した見直しを行う。

行政の立場では、このサービスが安定的に供給できるように見直す。



畜産共進会 子牛の部1区優秀賞



## 問 自治振興会に担当職員を

### 答 職務命令は出しにくい



佐伯卓師議員

**Q** 再編が検討されている公民館と、自治振興会の活動は、連携しなければ大きな成果は期待出来ない。地区・地域により活動に大きな差がある。

自治振興会に、余裕の出来ている職員を担当させ、自立した活動が出来るまで支援するべきでは。

**A** 町長  
多くの振興会では職員が自主的に携っている。職務命令としては出しにくい。今後そのように指導していきたい。

**Q** おでかけタクシイは、予約・運行に利用者の不満が多い、利用者増への対策と、見直しは。

**A** 町長  
また、バス廃止地域の通学等については、今後抜本的に見直すのか。

**A** 町長  
予約時間は二時間延長する。運行時間等についても、利用者と業者の意見を聞き、より良い制度としたい。

**A** 助役  
今後のバス運行にも不透明さがあり、中国バスの状況を見ながら、本町の交通体系についても、抜本的に見直しなければならぬ。

**A** 助役  
今後のバス運行にも不透明さがあり、中国バスの状況を見ながら、本町の交通体系についても、抜本的に見直しなければならぬ。



高橋公民館 料理教室

## 問 おでかけタクシイの見直しを

### 答 三者が納得する見直しをする



木野山孝志議員

**Q** おでかけタクシイの契約方式の見直しを、行い制度の充実を図れ。

**A** 町長  
町・業者・利用者の三者とも満足、納得するように協議・変更する。基本的に見直す。

**Q** 公民館活動と自治振興会活動はどう位置

**A** 町長  
付けられるのか。

**A** 公民館は社会教育施設で、自治振興会の自立や支援に向けて情報設備など施設の充実をはかる。議会等と協議して具体化を図る。

**Q** 新公債費比率が公表され新規借入れに、

**A** 町長  
負担適正化計画が必要となった。この原因はなにか。

**A** 町長  
長期総合計画、新規事業は予定どおり実行できるのか。

**A** 町長  
原因は、合併前に国の景気対策としての事業や、多くの合併関連事業

を行ったからである。制約をうけるが、長期的に財政状態が改善するように「集中と選択」を厳格に実施し、事業の吟味を行う。今後は、過疎債・辺地債以外の事業は無理だ。新町建設計画二・四億円の事業の圧縮は五〇〜六〇億を超える可能性が強い。井関住宅団地開発は、新

町の核となる事業だが予算の見直しが必要と思う。町債のほとんどは建設町債で町の発展に繋がっている。全て無駄ではなく先取りをしたものだ。今後に於いては、公債費適正化計画を町広報に掲載し理解を求め、これからは耐乏をお願いしたい。



通学風景 (神石小学校)



## 問 水源確保は

### 答 前向きに検討する

**Q** 命の次に大切な水。地球温暖化、異常気象、文化生活、新規工場、住宅建設等に伴う使用量の増が予想される。また、地下水位の下降等に

より、水源の確保は近い将来必要である。町村合併時の新町建設計画には盛り込まれていない。本町の水源確保対策と

して、新長期総合計画に盛り込む必要があるが町長の考えは、町長

**A** 水源確保は重要な課題であると認識している。本町は地形的に、小規模のダムを随所に建設していかなければならない。併せて、道路改良や、森林整備とセットでの事業展開ができればと考えている。しかし、極めて厳しい財政状況にあり、合併建設計画も、五〇億から百億の間で、削減・断念せざるをえない状況であり、すぐにはいかないが、前向きに検討する。



小川清治議員



平石池でのブラックバス駆除



前向きに検討する。

## おでかけタクシー目的別利用者数

### 外出目的別実利用者割合

地区	月	実数(人)				割合(%)		
		通院	買い物	その他	合計	通院	買い物	その他
油木地区	6月	58	5	25	88	65.9	5.7	28.4
	7月	94	15	13	122	77.0	12.3	10.7
	小計	152	20	38	210	72.4	9.5	18.1
神石地区	6月	54	6	8	68	79.4	8.8	11.8
	7月	83	8	22	113	73.5	7.1	19.5
	小計	137	14	30	181	75.7	7.7	16.6
豊松地区	6月	19	7	13	39	48.7	17.9	33.3
	7月	28	12	17	57	49.1	21.1	29.8
	小計	47	19	30	96	49.0	19.8	31.3
三和地区	6月	134	7	24	165	81.2	4.2	14.5
	7月	117	14	35	166	70.5	8.4	21.1
	小計	251	21	59	331	75.8	6.3	17.8
合計	6月	265	25	70	360	73.6	6.9	19.4
	7月	322	49	87	458	70.3	10.7	19.0
	合計	587	74	157	818	71.8	9.0	19.2



# 委員会報告

## 産業建設常任委員会先進地調査

### 香川県・徳島県の農業法人を視察

産業建設常任委員会は、平成十八年八月二十三日～二十四日に農業法人の先進地調査を行いました。

#### ◎調査の目的

農地の荒廃を防ぎ、地域農業の活性化を図るため、農業生産法人の組織化と活動を調査し、本町の集落営農・農業法人化



佐藤農園

#### ◎視察場所

香川県三豊市財田町  
農業法人 (有)林泉

の推進及び荒廃地の防止に役立てるため。

#### ◎企業理念

企業で水田農業の変革に臨む。

#### ◎調査の結果

組織化に向けて、後戻りできないように、個人の機械を全て売却するなど徹底した取り組みがなされていた。

米の販売も自ら開拓し、民間の給食業者などに有利で販売されている。

農業生産法人の重要性和、それに利潤を追求する企業経営（農業）の努力を実感した。

「林泉」では行動実践力のあるリーダーと若い人がうまくかみ合い、改めて、人づくりの重要性も感じた。

徳島県美馬市美馬町  
農業法人 (有)佐藤農園

美馬町は、典型的な中

山間地域で、高齢化が進み、佐藤農園のある坊間地区は、二十五戸のうち、専業農家は一戸である。こうした中、県の補助

事業、一三〇〇万円を受け、受委託作業を中心に取り組む「(有)美馬グリーンサービス」を五人で設立。その後平成六年に独立して、「(有)佐藤農園」を設立。

●資本金……三〇〇万円  
●役員……二名  
●雇用者（パート）九名（福利厚生有り）  
●経営面積

水田……四畝  
ジャガ芋……一畝  
玉ねぎ……一畝  
モチ麦・トマト

水田の受委託では限界もあり、仕事も春と秋に集中するため、年間を通しての仕事を確保し、会社の経営を安定させるため、野菜の生産販売を重点に行っている。

販売先は三井物産をと

おしでの販売、大阪市内のスーパ、ホテル、ダイエーなどである。

年間通じて注文先の需要に応じるため、「有限責任事業組合（LLP）あわアグリ」を県内の三農業法人と連携して設立。

農地の高低差（六〇～九〇〇坪）を利用して連続出荷を行っている。

現在は一〇〇種類を越す栽培品目を「あわアグリ」ブランドとして大阪市内を中心に出荷している。米も全て直販で、検査も自分たちで行っている。

#### ◎調査の結果

この会社は販売先を開拓し、需要に応える作物が供給できる体制を築いている。農業生産法人は、経営が成り立ち、利益の出る経営が不可欠である。



## 福祉文教常任委員会 グループホーム・保育園を視察

八月二十二日、グループホーム安田いこいの家」を訪問調査。

三原所長、横山事務長より施設の説明を受けた。

入居者は八名（九月より一名増え九名の予定）。

年齢は六十代一名、八十代五名、九十代二名、介護度は、要介護①→二名

同②→三名、同③→二名、同④→一名、職員は、所

長、事務長、主任一名、

看護師一名、介護福祉士

一名、ホームヘルパー四名（パート二名）、ボランティア四名で運営。

六名の常任委員との質疑の主な点。

①委員 介護度が良くなる方があるか

回答 おられるが、一時的、町の認定とは違う介護度に思える

こともある。

②委員 なぜNPO法人なのか

回答 資本金なしで立ち上げるのに一番簡単だった。

③委員 入居費用は一部でいいの

回答 一割でいい。施設の経営は、きびしい運営です。

④委員 入居者八名くらいで経営が成立つか

回答 ユニット九名までと国が定めている。ぎりぎり、所長や事務長はボランティアの部分もある。

歳児十二名の計四十六名。

給食は、二歳児以下が完全給食、三歳児以上は副食給食（月に米一・五kg持参）。

送迎は保護者が基本だがタクシーも利用（予算三二〇万円）。

②油木保育所 職員は全員正職

で、いずみ保育所と同数。入所児は、二歳児三名、三歳児四名、四歳児十七名、五歳児十七名の計五十一名。二歳児のみ完全給食、三歳児以上はご飯のみ持参。遠隔地は、スクールバスまたはタクシー（昨年は八二万円）利用。二歳未満の保育は、スペースがないのでできない。

③とよまつ保育所 職員は、保育士資格

所長、保育士四名で正職の調理員はいない。入所児は、二歳児五名、三歳児八名、四歳児九名、五歳児十二名の計三十四名。

二歳児の受け入れは、平成十五年四月

から（増築後）。土曜日は、保護者との触れ合いのため、三十四名中、十三名くらいが休む。四歳・五歳を対象に調査したが、夜更かしをした児童は朝食が十分とれていない。

④くるみ保育所 職員は、所長、保育士二名、正職の調理員はいない。三歳児七名、四歳児七名、五歳児七名の計二十一名。給食は、副食給食で米を持参。スクールバスも遠隔地は利用。遊具の修繕必要（九月定例会で補正）。国道一八二号線からの進入路が危険（特に凍結時）。

⑤こばたけ保育所 職員は、所長、保育士四名で、正職の調理員はいない。入所児は、二歳児五名、三歳児十八名、四歳児十名、五歳児十九名の計五十二名。スクールバスの利用はなし。昭和五十四年度築の施設であり、雨漏り箇所が多い（屋根の改修を含め修繕工事中）。



いずみ保育所視察



グループホーム・安田 いこいの家

同日、神石高原町の五つの保育所を訪問調査。

①いずみ保育所 職員は、所長、保育士四名、調理員一名。入所児は、〇歳児一名、一歳児二名、二歳児六名、三歳児十二名、四歳児十三名、五

歳児六名、三歳児十二名、四歳児十三名、五

歳児六名、三歳児十二名、四歳児十三名、五

歳児六名、三歳児十二名、四歳児十三名、五

歳児六名、三歳児十二名、四歳児十三名、五

歳児六名、三歳児十二名、四歳児十三名、五





元気な

# グループ紹介

## コーラスグループ グリーンエコーズ(神石地区)



交流センター



神石高原の山々にさわやかな歌声が響きわたると、会を結成して五年が過ぎました。当初、歌好きな仲間二十五名が入会し、グリーンエコーズと会の名前が決まりました。毎月第二・第四水曜日午後七時から九時までじんせきの里で練習しております。ご指導頂いている福山市在住の藤田育代先生はとても厳しいです。しかしユーモアがあり会員は練習日を楽しみに待っています。基本となる発声の仕方については特に厳しく指導され今では言葉をはつきりと腹から声が出せるようになり、その成果に一人一人が満足しています。今日まで地域のイベントは勿論のこと、県民文化祭、福山市での交流会、老人

ホームの慰問など数多く出演し温かいご声援を頂きました。老人ホームの慰問では懐かしい童謡を歌ったとき、お年寄りの方々が涙を流し、一緒に歌ってくださり会員皆感激しました。楽しく歌い、ストレスを発散し、生きがいや、友達づくりに大きな力を発揮するのが合唱です。人生に潤いをもたらし、学ぶ喜びを感じ、時には「スター」となって人前で練習の成果を発表するなど合唱の魅

### 編集後記

田植後の日照不足、八月の真夏日の連続、刈取時の、秋雨前線の停滞、また台風13号の襲来による作業効率の悪さでしたが、九月下旬の秋晴れにより、脱穀・調製もはかどりました。

今年の水稲作況指数は、九十七の一やや不良(日本農業新聞九月二十九日)と報道されています。

温暖化の中で育った、コシヒカリの食味はいかがな味であろうかな。

水田農業対策事業も十八年度で終了、十九年度より経営安定対策事業が始まります。すでに経営規模要件を示した担い手づくりにとり組まれています。

農地保全はもとより、お互いの生活環境の保全のため一層の精進を期待します。

(小)

力には数えきれません。歌の好きな方一緒にこの喜びを味わいませんか、ご入会を歓迎しています。

時代は変わっても歌唱の中に生き続ける心、日本人の温かみ、豊かさは決して失ってはならないものであると思います。これからも初心、感謝の気持ち、歌の心、会員の和を大切に地域交流のため一層精励したいと思っております。今後共温かいご支援のほどお願い申し上げます。

■住所／広島県神石郡神石高原町小島二〇二五

TEL 0847-89-3340

FAX 0847-85-3394